

T O P I C S

平成 14 年度鶏病事例検討会ハイライト

実際の養鶏現場で問題となっている事例を持ち寄る形の検討会を開いてから約 30 年、本年度で第 230 回を迎えた鶏病事例検討会は、発足当時の精神を受け継ぎ、討論を重視し、鶏病の診断、養鶏現場などで困っている問題を解決するための情報交換の場としております。そのため、学界などで認められたこととか、定説になっていることの焼きなおしの情報でなく、いまだ確定していない、未解決の問題を検討する場として会を運営しております。最近では、BSE の国内発生や畜産物の偽装問題などにより、消費者の食品への不信感が現れているせいか、内容によっては検討会での発言にもかなり慎重さを要した面も見られることもあるが、今もなお学会とは違った検討会として続いている。会の運営は、近県の病性鑑定所や民間研究所の代表者、学識経験者により構成された運営委員会によりテーマやプランナーを決めている。各種の要望事項も多く出され、参加者も一回の平均が 135 名と多く、盛況な状況で、今後とも社会性のある話題を取り上げ、自由な発想の基に自由に発言できる場として運営して行くつもりでおりますので、宜しくご参加下さい。

さて、前置きが長くなりましたが、平成 14 年度は第 227 回から第 230 回まで 4 回の検討会を開きました。第 227 回のテーマは「サルモネラ対策と HACCP」で、6 月 21 日に動物衛生研究所講堂で開催した。サルモネラは公衆衛生上問題になるテーマでもあり、参加者は 167 名と講堂にほぼ満席の参加者があり、活発な討論が行われた。特に佐藤静夫先生（全農家衛研）と合田光昭先生（JA あいち経済連）は海外におけるサルモネラ対策と日本の現状を分析され、生産者には強いインパクトを与えたものと考えられます。また、中村政幸先生（北里大）と石本明宏先生（滋賀県家保）は国内で問題となっているサルモネラ菌種とその現実的な対策方法について現場の苦労を伺わせるものでした。第 228 回のテーマは「新しい鶏アデノウイルス感染症」で、9 月 27 日動衛研講堂で開催

しました。少し専門性の高いテーマで、しかも演者が動衛研や家畜保健衛生所等の専門家で構成されていたこともあり、参加人数は 76 名と少なかったものの、新しいタイプの鶏アデノウイルス感染例の紹介があり、興味深いものであった。12 月 20 日に開催した第 229 回のテーマは「鳥インフルエンザの海外状況と防疫対策」で、この会からは手狭な動衛研講堂から農林水産技術会議事務局筑波事務所の農林ホールに場所を移動しました。参加者は 121 名であり、時期を得た社会的にも非常に関心の高い内容であり、活発な討論が行われた。特に山田淳志氏（畜産部衛生課）の「家きんペストの国内防疫体制」についてはまだ課内の検討段階であるにもかかわらず、参加者の意向を真摯に聞き入れ、柔軟な対応をしておられたことが印象的でした。第 230 回は平成 15 年 3 月 14 日「薬剤に頼らない養鶏と寄生虫ワクチン」のテーマで農林ホールにて開催しました。運営委員会では当初「無薬養鶏と寄生虫ワクチン」というテーマを考えていましたが、畜産物の偽装問題もあり、演者からの要望によりテーマを一部変更して実施した。参加者は 176 名と盛況な検討会であった。

次回の第 231 回の検討会は 6 月 20 日農林ホールにて「卵内ワクチネーションの現況と将来展望」のテーマで実施する予定です。最近鶏へのワクチネーションは、省力化のため卵内に接種して病気を予防しようという発想の基に機械化されてきている。外国の研究者を招いて通訳付きの検討会です。是非参加して、活発な討論に参加下さい。尚、検討会ではテーマに関係した事例や、意見を聞きたい未解決の問題や事例などがありましたら、その場での検討課題として取り上げているので、検討材料をお持ちの方は事務局へ一報をお願いしたい。（総合防疫研究官 水野 喜夫）[鶏病事例検討会の講演要旨は <http://niah.naro.affrc.go.jp/event/kai/keibyuu/keibyuu.html> からご覧いただけます。]